

本日のレセプションにご出席いただき、誠にありがとうございます。徳仁天皇陛下は、今月 23 日に 65 歳になられます。本日は陛下の誕生日よりも少し早いですが、陛下の誕生日を祝うレセプションを開催させていただきました。

今上天皇陛下は、紀元前 7 世紀の初代天皇、神武天皇から数えて第 126 代天皇であります。この長い皇室制度の歴史の中で、天皇の地位は変遷してきました。第二次世界大戦後、天皇は日本国及び日本国民統合の象徴となられ、国政に関する権能は有しませんが、日本の戦後復興と発展の道を国民とともに歩まれ、国際親善に尽くされてきました。今上天皇陛下も、2019 年の御即位以来、慎ましく温かなお人柄と国民に寄り添うお気持ちで、日本国の象徴として御公務を遂行されています。ちなみに、今上天皇陛下は、皇太子殿下であられた頃、1992 年と 2006 年にメキシコを訪問されています。また、昭和天皇の時代にも、徳仁親王殿下のお立場で、1982 年にメキシコを訪れておられます。

ご来賓の皆様、本年は日本メキシコ経済連携協定が発効して 20 周年となります。この協定は、2004 年に当時のビセンテ・フォックス大統領と小泉総理大臣の間で署名され、翌 2005 年に発効しました。当時、メキシコ国内には約 300 の日系企業の拠点がありましたが、それが現在は約 1500 拠点ということで、5 倍に増えています。このうちの半分以上、およそ 800 の日系企業のオフィスや工場が、私たち総領事館が管轄するバヒオ地域の 6 州、すなわちグアナフアト州、アグアスカリエンテス州、ハリスコ州、ケレタロ州、サンルイスポトシ州及びサカテカス州で日々操業しています。

これらの日系企業はたくさんの雇用を生み出し、日本の持てる産業技術をメキシコに広め、バヒオ地域の経済、そしてメキシコ経済の発展に大きく貢献してきました。同時に、日本からメキシコへの企業の進出は、長引く不況など様々な困難に直面してきた日本経済の活性化にも貢献しています。つまり、日本からメキシコへの投資は、メキシコと日本の両国に大きな利益をもたらしているのです。

一方、ここ数年、「法の支配」に基づく自由で開かれた国際秩序を揺るがす事態が起きており、今年に入り世界経済は不確実性と不透明感がさらに増えています。そうした中で、日本とバヒオ地域、そして日本とメキシコの間に培われてきた共に繁栄していく経済関係を今後も進展させていくために、総領事館としては、バヒオ地域の日系企業の皆様、日本側関係機関、そしてバヒオ地域の関係各州及び市政府と緊密に連携して参りたいと思います。

ご来賓の皆様、私は昨年11月にレオンに着任して以来、バヒオ地域の各地を訪問し、また様々な行事に参加し、州政府や市政府、経済、文化、学術など各界の方々とお会いしてきました。どの町を訪れても、またどなたにお会いしても、暖かく迎えていただき、大変嬉しいです。また、当館が管轄する6州には約5000人の在留邦人の方々が在住されており、地元メキシコの方々と交流を持たれています。そして日系社会の皆様も日本とメキシコ間の相互理解の促進に貢献されています。私は、こうした市民のレベルの友情と相互理解こそが、日本とメキシコの友好関係の礎であることを実感いたします。

ご来賓の皆様、私ども総領事館は、日本とバヒオ地域、そして日本とメキシコの友好関係のますますの発展のため、一丸となって努力していく所存です。皆様の引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。ご清聴、ありがとうございました。